助産師教育

NEWS LETTER

公益社団法人
全国助産師教育協議会
Japan Society of Midwifery Education

No.88 2017. 3. 25

助産学生の学修支援を基本とする災害支援
―熊本地震における社会貢献委員会活動の実際―

四国大学教授
（社会貢献委員会担当理事）　高　橋　順　子

皆様におかれましては、手塩にかけて育てた助産学生を社会に送り出した喜びを味わう間もなく、新学期準備に奮闘されていることと思います。

昨年は、4 月 14 日に震度 7 を記録する熊本地震、6 月に内浦湾、10 月には鳥取県中部地震が発生し、助産学生が学ぶ被災地には甚大な被害がもたらされました。これらの地震により亡くなられた方に謹んで哀悼の意を表するとともに、今なお、被災生活を送る方々に対し心よりお見舞い申し上げます。

社会貢献委員会は、皆様のご協力を得ながら災害支援に取り組んでおります。今回は、熊本地震への災害支援活動の実際をご報告します。

安否確認と方針決定

平成 28 年 4 月 14 日 21 時 46 分、熊本地区災害の緊急ニュース報道を受け、社会貢献委員会は、翌日早朝からメール会議を開始しました。

4 月 15 日：九州地区の会員校 22 校に①人的被害状況、②住居など物的被害状況、③ライフラインの状況、④現在の居場所、⑤5 月 6 日からの授業開始に向けての対応の可否、⑥安否確認、⑦交通手段の状況等の確認メールを発信しました。

4 月 17 日：6 校の会員校から、無事であること、被害はないことの連絡が入りました。熊本県の被害状況がつかめず、九州地区の理事に情報提供を依頼しました。

社会貢献委員会は、得た情報を随時理事会に報告すると共に、平成 28 年熊本地震への支援対応の基本方針案を理事会に提出しました。

1．助産師学生が今後も助産学の学習を継続できるように支援する。
2．助産学生が熊本地震で被災された方々へのボランティア活動を行う際に役立つ情報を提供する。

理事会 , 関連委員会と連携

4 月 16 日：東日本大震災の被災地で支援活動に当たられた理事からチラシ「避難所女性に必要な情報」の提供を受け、理事会では、「迅速に具体的な支援をする」事を基本方針とし、進め方の確認が行われました。

4 月 17 日：全国助産師教育協議会は、1. HP にお悔やみとお見舞い文を掲載する。2. 災害時情報を提供する（理事が提供できる災害時に役立つ情報を掲載する）。3. 被災地域にある非会員校に対しても、メール等で連絡を取り、困っていること・必要なことを伺い、支援を実施する。4. その他各理事からの提案を迅速審議ののち実行する。理事会にコアチームを結成する。①このコアチームで了解されたのち、理事会のメール審議にかける。②合意が得られたら、実行に移す。5. 実行とモニターは各委員会が担当することが決議されました。

4 月 19 日：ホームページにおくやみ文、震災関連情報掲載のアドレスを掲載しました。

義援金活動

4 月 26 日：理事会では、東日本大震災時に施行した「助産師教育支援のための災害義援金の内規（平成 23 年の 4 月）」を見直し、4 月 26 日「熊本地震による助産師教育のための義援金募集」開始をホームページに掲載しました。6 月は総会で募金活動を行いました、多くの会員校、個人会員の皆様のご厚意により、義援金総額は 159,963 円となりました。ご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

12 月 17 日：募金活動のホームページ掲載から半年が経過したため、理事会で分配方法を決議しました。

平成 29 年 1 月 17 日：被災届があった 2 校 15 名の助産学生、熊本の被災校に見舞金を送金しました。

被災者の一人は「震災から 8 か月が過ぎようやく散乱した荷物の片づけができた。震災前にはほど遠いが、日常生活が戻ってきた」と話しています。空から熊本市街地を撮影した写真には、ブルーシートをかけた家屋が目立ち、災害の爪痕は色濃く残っていました。

復興にはまだまだ月日が必要と思いますが、卒業生が被災経験を糧に未来に羽ばたくことを祈念しております。

扉 …… 1
教育・活動報告 …… 2
全助教からのお知らせ …… 6
トピック …… 7
わかばの部屋 …… 8
理事会報告 …… 9

情報提供と全国助産師教育協議会の今後の方針
－看護師の診療補助行為として子宮頸がん検査実施可能との閣議決定について

全国助産師教育協議会　会長　井　村　真　澄

2016年4月、安倍首相は、参議院議員薬師寺みちよ氏の質問に対し、国会答弁書において、子宮頸がん検査の細胞採取は看護師の診療補助行為として、医師の指示のもと実施可能であるとの法解釈を示しました。これに対し産婦人科医会及び学会から精度管理の視点から照会が出され、厚生労働省は、産婦人科医師の指示の下、実施にあたる看護師が相当の訓練を受けていることが適当と考える、と回答しました。

助産師は女性のリプロダクティブヘルス・ライツにかかわる専門家であり、性教育や妊娠分娩産褥期のケアを通して子宮頸がんに深く関与しています。全国助産師教育協議会は上記を受け、今後助産師が子宮頸がん検査を実施していく可能性を見据え、助産学生の教育の中に子宮頸がん検査の知識・技術を取り入れる準備を開始することを理事会にて決定しました。

そのためには、まず教員の研修から開始いたします。全国研修会、全国総会等の機会を通して、機関校の皆様への情報と研修の機会を提供していく予定です。今後、来年度の地区研修会で実施して頂く当該研修会モデル案をお知らせいたします。地区長の皆様には、各地区研修会において子宮がん検査の教員研修を行って預けると幸いです。ご協力の程、よろしくお願い致します。

なお、会員校の皆様におかれましては、今後の研修会開催のお知らせにご留意頂き、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

第8回（通算53回）公益社団法人全国助産師教育協議会社員総会

日　時	場　所
2017（平成29）年6月10日（土）・11日（日）	東邦大学　看護学部 〒143-0015　東京都大田区大森西4-16-20

◎医学書院の助産師向け書籍

産み育てと助産の歴史
近代化の200年をふり返る　編著　白井千晶
出産が医療化する以前までお産に携わってきた取り上げ婆から現代の助産師まで、出産に携わる女性たちの歩んできた激動の歴史を綴る1冊。
●A5　頁320　2016年　定価:本体2,800円+税　[ISBN978-4-260-02482-2]

実践 マタニティ診断 第4版
編集　日本助産診断・実践研究会
マタニティ診断の基礎知識から活用のしかたまでを網羅した実践書。妊産褥婦や新生児をどのように観察し診断するのかに関して、事例を交えて実践的に理解できる。
●B5　頁336　2016年　定価:本体3,800円+税　[ISBN978-4-260-02493-8]

ウエルネスからみた 母性看護過程
＋病態関連図 第3版　編集　佐世正勝・石村由利子
妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期ごとに、「正常経過とアセスメント」「異常とケア」の2部構成。豊富な情報から実習記録の悩みもスッキリ解消。母性看護過程の決定版。
●A5　頁1016　2016年　定価:本体3,800円+税　[ISBN978-4-260-02838-7]

根拠と事故防止からみた
母性看護技術 第2版　編集　石村由利子　編集協力　佐世正勝
好評書の改訂版。豊富な写真とイラストに「動画付録」が追加。妊婦、産婦、褥婦、新生児それぞれに対する看護技術を広く網羅。
●A5　頁508　2016年　定価:本体4,000円+税　[ISBN978-4-260-02499-0]

医学書院　〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23　[WEBサイト] http://www.igaku-shoin.co.jp
[販売部] TEL:03-3817-5650　FAX:03-3815-7804　E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp

中国・四国地区　報告

平成 28 年度　中国・四国地区地区長　高知大学大学院実践助産学課程　**池　内　和　代**

Ⅰ．地区交流会の開催

【開催日時】平成 28 年 8 月 28 日（日）11：30～12：30
【会場】高知大学医学部看護学科棟 1 階　多目的室
【参加者数】23 名　10 校
【担当校】高知大学大学院総合人間自然科学研究科
　　実践助産学課程
【議題】
1．報告事項
・理事会報告
・看護職パップスメア実施について
・男子学生の母性実習について
・CLoCMiP について
2．意見交換
・分娩介助実習については、各学校に実習の工夫点の意見交換を行う。特に夜間の実習指導に関しては臨床の協力を得て実施しているが教員の疲弊もある。
・分娩件数は低下しているが助産師養成学校は増加している状況である。また、就職希望の施設には偏りがあり、就職試験に落ちてしまうという現状もある。
・9 例を下回らないようにしないと力のない助産師を排出することになり助産師の存在意味を問われることになる。等々の意見交換がなされました。

Ⅱ．研修会

【開催日時】平成28年8月28日（日）13:00～16:00
【会場】高知大学医学部看護学科棟 2 階　保健指導室
【参加者数】26 名
【プログラム】
1．テーマ：助産師教育の未来を考える
2．講　演：
「助産師教育を担う人たちへ」
　元香川県立保健医療大学教授　宮本政子　先生
「助産師教育に関して臨床の立場からの意見」
　高知赤十字病院　看護師長　渡邊　文　　先生
　国立高知病院　　看護師長　岡林　裕恵　先生
3．教員・臨床との意見交換会
・新人が伸びるかどうかは、当たり前のことが当たり前にできる、その場になじむ、コミュニケーションが取れる、疑問を言える、スタッフが教えたいと思える、ということが重要である。
・教員は臨床と橋渡しをする役割であり、臨床・教員との情報交換が重要である。
・学生の分娩介助については 1 ～ 2 例目が重要であるため臨床・教員が丁寧にかかわる必要がある。
・担当の講義の中で臨床も興味がある講義を Open にし、実習関連施設対象に講義受講のお知らせをし、受講時は証明書を発行している。CLoCMiP の証明にも使ってもらえるようにしている。等々、臨床が望むことや教員側からの臨床との連携強化に向けた取り組みなど、活発な意見交換ができました。

Ⅲ．アンケート結果

1. 交流会、研修会の満足度（n = 17）
　あまり満足しなかった、満足しなかった、と答えた方はおられず、17 名が満足した、という結果であった。

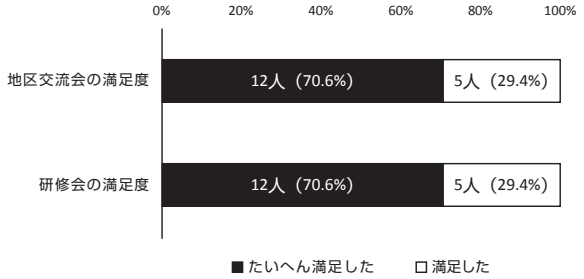


図 1　地区会における交流会・研修会の満足度

2. 研修会内容について（n = 17）
　ほとんどの方が役に立った、という回答であった。

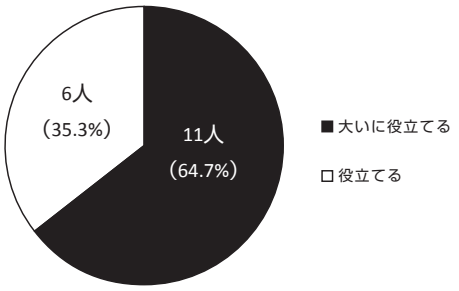


図 2　助産教育の一助になったかどうか

3．全体的な意見・感想（自由記載）
・細かな配慮を頂きながら研修させていただきました。
・講師の方々のお話しに元気をもらいました。意見交換会も有意義でした。
・他校の現状を知ることができて参考になりました。特に臨床師長さんとのお話しができてとてもよかったです。

臨床の方と教員との意見交換会の様子

中部地区研修会報告

平成 28 年度　中部地区地区長　名古屋大学医学部保健学科看護学専攻　**入　山　茂　美**

【日時】平成 28 年 12 月 17 日（土）10：00～17：00
【場所】三重大学医学部看護学科　新医学棟 3 階第 3 講義室
【出席者】中部地区総会 37 名（14 校）、シームレスな教育に関する討論 38 名、教育講演 39 名
【内容】
1. 10：00～10：55　中部地区総会
2. 11：00～12：00　シームレスな教育に関する討論

「教育から臨床へシームレスな教育を行うための工夫について」に関する事前アンケートの調査結果について、名古屋大学の高橋由紀准教授より報告がされました。その報告後、1）学内において臨床との乖離を予防する点、2）実習時に臨床との乖離を予防する工夫、3）臨床と教育のシームレスな教育を阻む問題点とその対策について、グループディスカッションを行い、グループ毎に発表し、参加者全員で共通理解を図りました。

臨床との乖離を予防するには、臨床との十分な話し合いを持つことや実習の目標や到達度の一致をさせることの重要性について発表がありました。参加者からは、「臨床と十分なコミュニケーションが必要であることを再認識した。」「卒後教育も含めたシームレスな教育が必要であることに気づかされたので、今後の教育に活かしていきたい。」という感想がありました。

3. 13：00～17：00　研修会

1）教育講演

「産前産後をつなぐ切れ目ない支援～助産師のケア能力を高める～」

帝京大学福岡医療技術学部　平田伸子教授
松本八千穂講師

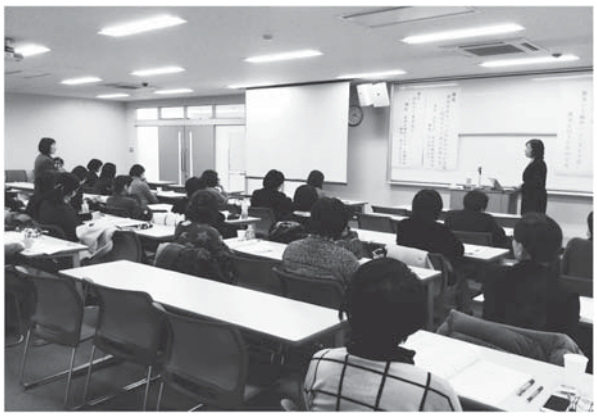
2）産褥入院に関する活動報告

鈴鹿医療科学大学看護学部　國分真佐代教授

教育講演では、地域母子活動における児童虐待予防の取り組みについて、法制度、支援を必要とする妊産婦への情報提供、母子保健施策について、ご自身の活動を交えながらのお話をされました。助産師に求められることとして、問題のある親ではなく、支援を必要とする親と捉え、気になる妊婦を他機関と連携して支援する重要性が強調されました。活動報告では、母親のニーズに合わせた産後入院のケアについて報告がされました。

教育講演と活動報告の内容を踏まえ、教育上の課題や教育にどう反映させられるかについてのグループディスカッションを行い、意見交換を行いました。参加者からは、「教育講演では、法改正の意味と今後、何を見極めるべきかとてもよく理解できた。」「地域で子育てを支えるために、行政にも助産師が必要であることを認識した。」「グループディスカッションでは、活溌な意見交換ができ、他校の教員と課題を共有することができた。」という感想がありました。

今回の研修会ではグループディスカッションの時間を多く取り入れたことから、養成機関の違いを超えて、十分な意見交換ができ、今後の助産師教育に活かしていくことができる有意義な研修となりました。



教育講演時の質疑応答

関東甲信越地区研修会報告

平成 28 年度　関東甲信越地区地区長　帝京平成大学地域医療学部看護学科　**大　澤　豊　子**

日　時：2016 年 8 月 20 日（土）　13：00 ～ 16：00
会　場：帝京平成大学ちはら台キャンパス
テーマ：『助産師教育カリキュラムにおける思春期教育の実際－地域との連携に焦点を当てて－』
プログラム：
13：00 ～ 14：50　Ⅰ．助産師教育シンポジウム
1．教員の立場から　　大澤　豊子（帝京平成大学地域医療学部看護学科　教授）
・小中学校における思春期教室の実施報告
・助産師教育のカリキュラムの位置付け
・健康教育の展開
・思春期教室実施後のアンケート結果
・養護教諭・保健師との連携
2．養護教諭の立場から　　米澤　洋子（元中学校養護教諭）
・中学校における思春期教室
・指導方法の工夫
・中学校での思春期教室の効果
3．健康福祉センターの立場から　椎田　好恵（千葉県市原健康福祉センター主査）
・助産師教育カリキュラムにおける思春期教室の実際と効果
・管内の思春期保健
4．助産師学生による思春期教室デモンストレーション（帝京平成大学地域医療学部看護学科）
テーマ：思い合うってなんだろう

対　象：小学 5 年生
内　容：1．自己紹介
2．赤ちゃんの成長過程説明
3．赤ちゃん抱っこ体験
4．ドラマ
参加者数：64 名
アンケートによる感想：
・学生のデモストレーションが大変良かった。
・思春期の「生」の教育、養教と保健師などタイアップしていくということはこういうことなんだと学ぶことができた。学生の生の声が聞けて良かった。
・幼少期の愛着が、思春期から成人しても様々な問題を抱えてしまう根底には、人の尊厳が軽んじられているという現状がある。この思春期教育は人が生きていく上でとても大切なことを伝えるもの。ぜひ継続してください。
15：00 ～ 16：00　Ⅱ．地区総会の開催
1．地区別研修会課題検討
テーマ：『教育から臨床へシームレスな教育を行うための工夫』
※事前に現状と工夫・取り組みについて報告をしてもらっていたためスムーズに意見交換ができた。
1）実習環境や教育体制の現状
・施設側との連携が重要である。
・県によっては、看護職員を確保する為に、助成している施設に指導者を派遣しているシステムがある。
・学生の就職が増え、指導者の確保ができれば、シームレスな教育につながる。等々
2）どのような工夫・取り組みをしているか
・実習前の実習調整会議、実習中の調整、実習後の評価など、顔を合わせて話し合う機会や研修会を実施している。
・妊婦健診、分娩介助 OSCE にて、臨床の状況を再現した設定を工夫し、学生に臨場感を体験させる。
16：00　閉会

新規機関会員校紹介

国立看護大学校看護学部　看護学科　唐　田　順　子

国立看護大学校は、2001年に厚生労働省が開設した唯一の看護高等教育機関です。2005年に修士課程（相当）、2015年に博士課程（相当）を開講し、現在に至っています。助産師養成課程は開設当初から学部教育の中で行い、今年度で13年目となります。本学は「心と心が通い合う、人間的な看護」というヒューマンケアの理想を基盤に、政策医療を担う国立高度専門医療研究センターで求められる高度な臨床実践能力、臨床看護研究能力を身につけ、先端医療の現場や国際医療協力の現場で活躍できる看護師、助産師を育成しています。実習施設である6つの高度専門医療研究センターには、臨床と教育の一体化を図るため臨床教員が配置されており、学内での学びから臨地実習への連動が図られ、学生の実習における臨床看護実践能力の育成がスムーズに進むよう工夫されています。

助産師養成課程では、成育医療研究センター、国際医療研究センターという高度専門医施設での実習を行っており、ハイリスクな妊娠・出産に出会う機会も多く、倫理的感性を備えた人材の育成をめざしています。妊娠・出産は子育てのスタートであり、母親・家族がその親子らしい子育てができるために、周産期においてはどのような支援が必要かを考え実践できる基礎を培ってほしいと願い教育しています。

助産師基礎教育テキスト
●多様化している助産師基礎教育のどのコースにおいても必要な、基礎的な知識と技術、態度を網羅しました。
数値データや法律、ガイドラインの解説等に伴う記述を毎年見直しています！
第1巻 助産概論
〔責任編集〕山本あい子　定価（本体3,400円＋税）
第2巻 女性の健康とケア
〔責任編集〕吉沢豊予子　定価（本体4,400円＋税）
第3巻 周産期における医療の質と安全
〔責任編集〕成田　伸　定価（本体3,400円＋税）
第4巻 妊娠期の診断とケア
〔責任編集〕森　恵美　定価（本体3,600円＋税）
第5巻 分娩期の診断とケア
〔責任編集〕町浦美智子　定価（本体3,600円＋税）
第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア
〔責任編集〕横尾京子　定価（本体3,600円＋税）
第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア
〔責任編集〕遠藤俊子　定価（本体4,500円＋税）
新版
助産師業務要覧
第2版
Ⅰ 基礎編
福井トシ子 編
●B5判　332頁
定価（本体3,000円＋税）
Ⅱ 実践編
福井トシ子 編
●B5判　340頁
定価（本体3,000円＋税）
日本看護協会出版会
〒102-0084 東京都千代田区二番町4-3 二番町カシュービル3F
（営業部）TEL.03-6685-0340　FAX.03-6685-0341
【コールセンター（ご注文）TEL.0436-23-3271　FAX.0436-23-3272】
http://www.jnapc.co.jp

「助産師が自治体と協働で取り組む子育て世代包括支援のしくみ」

東邦大学大学院　性・生殖看護分野　家族・生殖看護学研究室　教授　**福　島　富士子**

平成26年（2014）、政府は「妊娠・出産包括支援モデル事業」の実施を決定した。各市町村に子育て世代包括支援センターの仕組みを作り、そこに母子保健コーディネーターを配置する。さらに、家庭や地域での孤立感の解消を図るために相談支援を行う「産前産後サポート事業」や退院後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等のきめ細かい支援を行う「産後ケア事業」などを地域の実情に応じて実施し、妊産婦等に必要な支援体制の構築を図るしくみづくりである。

フィンランドのネウボラをモデルとした日本版ネウボラである「子育て世代包括支援センター」に「母子保健コーディネーター」として、助産師、保健師等を配置し、妊娠届時、母子手帳の交付時からすべての妊婦に個別にアドバイスを行う仕組みである。妊娠の始めから出産、退院後の生活を考慮して個別のケアプランを立て、援助の方向性を示し、さらに母親たちのグループを紹介するなど、母親自身のセルフケアを高めていくことを目指す。妊娠中から産後の支援者について、またその後の保育園入所についても話し合い、継続的に支援を行っていく。情報や知識を提供することはもちろんだが、退院後の仲間づくりや悩み・不安の解消を図る機会を設け、退院後にスムーズな生活がおくれるように、また、困ったときには自ら解決できるように支援を行うことが、安定した状態での子育てを可能にし、夫婦、親子の絆を深めることにつながるという考え方である。

1980年代から、長い間、高齢者政策が中心であった日本だが、ここにきてようやく「子育て」が社会保障の4本目に入った。この事業は、平成26年（2014年）末に閣議決定がされた「人口減少克服・地方創生にむけたまち、ひと、しごと創生総合戦略」（平成26年12月27日に閣議決定）のなかに位置付けられた。

すでに上記のような取り組みが、各地でモデル事業として始まり、産前・産後ケアから始まる「子育て支援包括センター」が開設されている。

これは前述の通り、フィンランドで実施されている子育ての包括的な支援センター（ネウボラ）を参考にした取り組みだが、日本版のネウボラとして実施されるには、産後ケアの充実や地域のNPOやシニア世代による、産前産後サポーター事業を加えた3事業を実施していくことが重要である。

産後ケア事業は、産後の母親の心身の回復はもちろん、良好な母子の愛着形成を促進する大事な支援である。産後直後は両親と新生児の大事な出会いの場だが、人間だけに起こる、母親の出産後のホルモンの劇的な低下により、出産後の母親は疲労と精神的に不安定な状態にあるといわれている。一方で、この時期は、子どもにとっては、人生の心理的健康を決定しうるといわれる、「愛着」を形成する上で最も大事な時期で、この時の親子関係の質が個人の長期的な社会的・心理的健康を本質的に決定づけるものになるといわれている。つまり、この大事な出産直後、出生直後の時期に、母親となった女性の心身を癒し、親子の愛着形成と、親としての自立を促し、社会復帰への援助を行うことが重要となる。

また、妊娠期の孤独、子育て不安の解消、孤立を防ぐ目的として産前・産後サポーターの存在も大事である。妊娠期から子育て仲間の輪を作り、女性を包括的に支援することが本来の意味での産前・産後ケアであり、現在の母子保健事業ではこのソーシャルキャピタルの考え方がほとんど抜けている状況にあるといえる。

産前・産後ケアを行う上で欠かせない専門職である助産師・医師・保健師・保育士・栄養士、心理士に加え、産前産後サポーターとなる愛育班員、産後ドゥーラ・育児支援サポーター等の地域の人々が母親や、家族の自立支援を支えるホスピタリティと見守るシステムの中で新しい家族が生活の基盤をつくり、その後の保育園入所へとつながっていく。

女性が「出産」という人生の節目に、自分の身体や心、ひいては人生に向き合うことで、豊かなパートナーシップや子育て、市民の地域社会への貢献、ワークライフバランスなど、今の日本に欠けているものを、自然に実現できる可能性が開けると考えている。人にやさしくされた人は、今度は次の人にそのやさしさを伝えていくことが出来る仕組みづくりである。その地域の仕組みを構築していく子育て支援包括支援センタープロジェクトは助産師が中心となることが今求められている。

助産師を育てる

筑波大学医学医療系　ウィメンズヘルス看護学・助産学　助教　川　野　亜津子

筑波大学の助産師教育に関わらせていただくことになりこの春で９年目を迎えます。2014年度から大学院化し、ますます身の引き締まる思いと責任を感じながら日々教育に奮闘しております。

助産師学生は１年次に講義や演習・実習を通して助産師に必要な知識や技術を身につけ、秋から分娩介助実習に入ります。並行して修士論文の研究を進めながら２年次の講義や実習もこなします。寝る間も惜しみ懸命に取り組んでいる助産師学生に対し、教員として何ができるのかを日々考えています。学生が最大限によりよい教育が受けられるような講義や演習、実習の展開・調整や精神的サポートなどできることは多くありますが、もっとよい関わりが持てたのではないかと、いつも振り返っているばかりの自分の姿があります。

助産師教育はただ単に助産という学問を教えるのではなく、「助産師を育てる」ということであると思います。知識を豊富に備え診断や技術を的確に行えるようになること、それをベースに自分で考えて行動に移すことのできる力、観察力や洞察力、判断力、冷静さ等々・・助産師として必要な能力は多くあり、これらは学生時代にしっかりと身につけることができるよう関わる必要があります。

教育者としてのスタンスが確立途上である私ですが、ただ一つ、学生に対して「こんな助産師になってほしい」という思いがあります。それは妊婦さんや産婦さん、褥婦さんに「そばにいてほしい」と思っていただけるような存在になること、またそれを大切にし、寄り添うことのできる助産師になることです。それは本当に難しいことであり助産師として経験を積む中で磨かれていくスキルなのかもしれません。しかし、このことが助産師としていかに重要なことなのか学生自らが理解し、そのためにどうすればよいのかを考え、実行することができるように教員は関わっていくことが必要であると感じます。

学生時代に受けた教育や経験は、これから助産師として働くようになってからの価値観や考え方に大きく影響すると思います。もちろん臨床経験を積む中でさらに様々な経験をし、その価値観も変わってくることもあると思います。しかし出発点での違いで、その後助産師としての伸びしろが大きく変わっていくのではないかと考えます。

多くの課題をこなすこと、そして昼夜問わない何週間にも及ぶ実習。学生は多くの様々な壁に突き当たります。そのような中で助産師として必要な精神力が鍛えられていくのだと思います。学生がそれを１つ１つ乗り越えて行けるよう教員は学生個々の特性をよく見極め、この学生にとってどのようなサポートが最も適しているのかを考えながら十分に関わっていく必要があると感じます。自らの力で困難を乗り越えることができた経験は、学生にとって大きな達成感と自信に繋がっていくでしょう。私はそのスキルをもっと磨いていきたいと思っています。

いろいろな特性を持った学生が毎年入学してきます。私は教員として一番必要なことは、一人一人の学生を理解する、ということだと思っています。まだまだ私には難しいことです。助産師として学生時代に修めるべきことはきちんと押さえつつ、学生個々の長所をうまく伸ばして、「そばにいてほしい」助産師が多く育っていくことを願い、今後も教育者として成長していけるよう邁進していく所存です。

2016年7月発売
新生児蘇生モデルアドバンス
LM-111　標準価格 ¥400,000（税別）
新生児に対する心肺蘇生法の訓練モデルです。
モデルから心音・呼吸音・泣声が再現でき、
タブレットPCによるワイヤレス操作が可能です。
KOKEN 株式会社 高研
札幌営業所 TEL(011)221-5888 ／ 仙台営業所 TEL(022)218-9540
東京営業所 TEL(03)3816-3500 ／ 名古屋営業所 TEL(052)950-6580
大阪営業所 TEL(06)6304-4854 ／ 福岡営業所 TEL(092)263-5101
特長
アプリ画面（操作画面）
心音、呼吸音、泣声はタブレットPCで簡単に操作できます。

www.kokenmpc.co.jp
※タブレット PC の仕様が予告なしに変更になることがあります。

公益社団法人　全国助産師教育協議会

平成 28 年度　第 3 回理事会議事録

日時：平成 28 年 9 月 22 日（木祝）　11：00〜17：10
場所：東京都助産師会館 5 階（会議室）
出席理事：井村　真澄、我部山キヨ子、佐藤　香代、
　　大石　時子、久保田君枝、鈴木　康江、
　　高橋　順子、福島　裕子、渡邊　典子
出席監事：熊澤美奈好、島田　啓子
出席幹事：潮田千寿子、山﨑　圭子
欠席理事：兵頭　慶子
書　　記：潮田千寿子
（敬称略）
理事総数：10 名　　出席理事：9 名
監事総数：　2 名　　出席監事：2 名
＊出席理事が過半数であり、理事会が成立する。

議事次第
Ⅰ会長挨拶
・助産師教育研修研究センター運営委員会から 3 名の委員が出席し、センターの位置づけや今後の事業について話し合う。
・理事会として取り組むべき課題は多い。結束を固めて粛々と進行する。

Ⅱ審議事項
1）センター運営委員会との合同協議
・平澤センター長、恵美須委員、村上委員出席。
（1）センター運営委員から、審議事項の議題として挙げられたのは次の 3 点である。
①センター運営委員会の位置づけ
②各委員会との連携、理事会とセンターとの連携
③センター事業の今後
・今後も世の中のニーズと連携しながら、センターと理事会が有機的に連動していく活動をする。
・具体案は理事会で検討し、それをセンター委員会に提案、検討する。
2）議事録承認
①平成 28 年度第 2 回理事会議事録（案）承認された。
3）子宮頸がん検体採取に関する教員研修計画
・次回会議までに、大石理事を中心に検討する。必要時は、複数メンバーとする。
4）社会貢献委員会；社会貢献班
①熊本地震義援金の配分
・検討資料を用意し、次回会議で検討する。
②北海道・岩手県の台風 10 号被害
5）事務所倉庫賃借料見積
・今年度利用料の、半年の残金支払いについて、承認された。次年度は倉庫の状況を見て検討する。
6）個人会員入会承認：承認された。
7）CLoCMiP レベルⅢ更新（教員）方針
①日本助産実践能力推進会議ワーキンググループ会議出席
②助産学会でのプレゼンテーション
8）組織強化委員会
①助産師学生の募集に関する調査
9）各省庁への要望書
（1）厚労省
（2）文科省
（3）自民党への要望書
10）選挙管理委員の選定
・理事 10 名、監事 2 名を選出することとする。
・地区長からの推薦となるので、地区長に依頼する。
11）教育検討委員会
①教育推進班：コア・カリキュラムのデルファイ調査
②教育評価班：「助産師に求められる実践能力の到達度自己評価に関する実態調査」助産学会に演題登録予定。
12）国際関連活動委員会

Ⅲ報告事項
1）広報委員会
2）社会貢献委員会
①地域連携班：第 31 回日本助産学会コングレス学生交流会　進捗状況
②メール審議：助産師から被災地への女性の皆様へのメッセージ
3）平成 29 年度事業計画・予算書案
4）センター運営委員会
①特定分野（助産）実習指導者講習会修了：東京会場（8/21）、大阪会場（8/28）
②関東甲信越地区研修会（8/20）実施
5）将来構想委員会
①総会ワークショップ「先駆的教育方法の試み」の総括と提言
②助産師教育と臨床実践とのスムーズな橋渡しのために　到達目標の検討
6）薬師寺議員との協議
① Pap Smear の件
②コア・カリキュラムの見直し
7）第 2 回日本助産実践能力推進協議会
8）第 1 回日本助産実践能力推進協議会ワーキンググループ
9）日本看護協会主催「納涼会」
10）自民党看護問題小委員会

「平成 29 年度予算編成に向けた要望書」提出
11）文科省コア・カリキュラム検討会
12）2016 厚労委託研究計画
13）厚労省委託研究の学会報告

Ⅳその他
1）ヘルシー・ソサエテイ賞推薦のお願い
2）「第 10 回母子手帳国際会議」の後援に関するお願い
3）ひまわり褒章 2016

平成 28 年度　第 4 回理事会議事録

日時：平成 28 年 10 月 16 日（日）　11：00～16：00
場所：東京都助産師会館 5 階（会議室）
出席理事：井村　真澄、我部山キヨ子、佐藤　香代、大石　時子、久保田君枝、鈴木　康江、高橋　順子、兵頭　慶子、福島　裕子、渡邊　典子
出席監事：熊澤美奈好、島田　啓子
出席幹事：潮田千寿子、山﨑　圭子
書　　記：潮田千寿子
（敬称略）
理事総数：10 名　　出席理事：10 名
監事総数：　2 名　　出席監事：　2 名

議事次第
Ⅰ会長挨拶
前半を振り返り、後半の活動についてもしっかり検討していきたい。

Ⅱ審議事項
1）議事録承認
①平成 28 年度第 3 回理事会議事録（案）が承認された。
2）子宮頸がん検体採取に関する研修会
3）教員の CLoCMiP 研修の更新要件
4）教育検討委員会
①教育推進班：デルファイ調査
5）社会貢献委員会
①熊本地震義援金の配分
②激甚災害に関する方針
6）組織強化委員会
①助産師学生の募集に関する調査
7）平成 28 年度全国研修会
8）広報委員会
①ニュースレター No88・89（案）
9）各省庁への要望書
①厚労省
10）「日本看護サミット 2017」後援名義使用依頼
11）会員校への調査依頼

Ⅲ報告事項
1）教育検討委員会
①教育評価班；助産学会発表の抄録
2）厚労省委託研究報告の助産学会報告内容
①「分娩介助例数の実習評価表に基づく実態調査」
②「臨床指導者がとらえる助産学生の分娩期ケア能力の学習到達度に対する調査」
③「助産学生の臨床実習および諸学国の助産教育課程についての文献レビュー」
3）社会貢献委員会
①「健やか親子 21 全国大会」参加報告
②地域連携班；第 31 回日本助産学会プレコングレスのプログラム及び学生募集
4）平成 28-29 年度選挙管理委員

Ⅳその他
1）将来構想委員会の進捗状況
2）HP への掲載
3）センター委員会との今後の話し合い

平成 28 年度　第 5 回理事会議事録

日時：平成 28 年 12 月 17 日（土）　11：00～16：50
場所：東京都助産師会館 1 階（八千代保育園）
出席理事：井村　真澄、佐藤　香代、大石　時子、鈴木　康江、高橋　順子、兵頭　慶子、渡邊　典子

Willnext（ウィルネクスト）「ケガ・感染・日常の賠償」は、ご自身のケガ、
日常生活の賠償事故への補償、感染見舞金制度を備えた補償制度です。
年間掛金 6,200円 約68%割引
年会費100円と共済制度運営費370円を含む
New 海外でもOK!　New 「示談交渉サービス」付きました!　New 28年度から、日常生活での感染症罹患もOK!
安心1 ご自身のケガ
例 業務中、患者さんをベッドから車イスに移乗させる際、腰部を捻挫してしまった!
安心2 第三者への賠償責任
例 自転車で通勤中、歩いていた老人にぶつかってしまい、相手に大けが（複雑骨折）をさせてしまった!
安心3 自宅待機期間中を含む感染事故見舞金（共済制度）
例 インフルエンザに罹患し、通院・自宅待機となってしまった!
このご案内は、Willnext「ケガ・感染・日常の賠償」の概要をご紹介したものです。ご加入にあたってはパンフレットに記載の「重要事項説明」をよくお読みください。
保険期間:平成28年3月31日午後4時から平成29年3月31日午後4時まで（毎月中途加入を受け付けております）
詳細につきましては下記取扱代理店までお問合せください。
制度運営：一般社団法人日本看護学校協議会共済会
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
（担当課）医療・福祉法人部 法人第一課
〒102-8014 東京都千代田区三番町 6-4 ラ・メール三番町
TEL:03-3515-4143
資料請求・お問い合わせ先
取扱代理店：株式会社メディクプランニングオフィス
〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-6 SJI ビル 2F
0120-847861 9:00～17:00（土・日・祝日・年末年始を除く）
◀資料請求用QRコード
16-T14246（平成28年6月）

欠席理事：我部山キヨ子、久保田君枝、福島　裕子
出席監事：熊澤美奈好
欠席監事：島田　啓子
出席幹事：潮田千寿子、山﨑　圭子
書　　記：潮田千寿子

（敬称略）

理事総数：10名　　出席理事：7名
監事総数：　2名　　出席監事：1名

＊出席理事が過半数であり、理事会が成立する旨、会長から宣言された。

議事次第

Ⅰ会長挨拶

・次年度の予算・活動計画の検討に入る。適切な予算編成を行いたい。
・将来構想委員会からは、将来ビジョン達成のための課題と、それに対する対応策案が示される予定である。
・厚労省の委託研究は、実態を踏まえたさらなる充実を目指したい。
・子宮頸がん検診は、具体的な実施計画を検討する。
・2年間のモデルカリキュラムを確実に進めながら、教員の質の向上、教育力の向上を目指していきたい。
・全国研修、特定分野実習指導者講習等、さまざまな課題に対して、力を合わせて推進したい。

Ⅱ審議事項

1）総務関係
①平成28年度第4回理事会議事録（案）：承認された
②第8回定時社員総会日程（案）：承認された
③平成28年度地区長会（案）：承認された。
④平成29年度　全国研修会　担当者決定（関東甲信越地区）

2）子宮頸がん検診　教員研修
①教員研修計画 今後のながれ
②平成29年度各地区研修会モデル案
③教材の貸出

3）広報委員会
① HP掲載の会員名簿の学校区分
②ニュースレター No.88　No.89：承認された。

4）組織強化委員会
①助産師学生の募集に関する調査

5）平成28年度全国研修会

6）特定分野実習指導者講習会補助金獲得

7）平成29年度事業計画・予算案
①平成29年度事業計画･予算案（各委員会別）
②平成29年度収支予算書（案）
a）教育評価班
b）組織強化委員会
c）センター運営委員会
・上記a）～c）の決定事項について、担当者は、地区長会までに確認する。
・パブリックコメントで事業計画に対して、意見をもらう。

8）将来構想委員会
①ミニマム・リクワイメンツとそれぞれの到達目標との対比に関する総括
②将来ビジョン1実現のための方策の検討

9）倉庫賃契約

10）社会貢献委員会
①「中・高校生向けリーフレット」に関する意見
②助産師教育支援のため災害義援金（内規）

Ⅲ報告事項

1）要望書提出
2）選挙管理委員会
3）国際関連活動委員会
4）社会貢献委員会
①調査報告
②平成28年度オレンジリボン運動参加校一覧表
③熊本地震義援金の配分
5）保健師助産師看護師国家試験出題基準の改定
6）厚生労働省看護職員確保対策特別事業進捗状況

Ⅳその他

1）日本助産実践能力推進協議会
2）ヘルシーソサエティ賞の推薦結果
3）仙台医療センター名誉院長　高橋克幸氏へ弔電
4）文科省コア・カリキュラム委員会

編集後記

卒業式の季節に入りました。

限られた期間や環境の中で助産師教育を行うことは困難なことも多く、卒業は先生方のたゆまぬ努力を重ねた結果といえます。少産少子時代が本格化する中、助産師を取り巻く状況も大きく変化しています。まだまだ未熟なところを残して卒業していきますが、4月からは助産師として志高く、逞しく生きていくことを願うばかりです。

会員の皆様、ご執筆者その他多くの関係者の皆様に支えられ、2016年度ニュースレター発刊も無事に終えることができました。皆様に心よりお礼申し上げます。これからも広報委員は一丸となって助産師教育に関する情報を皆様にご提供できるよう力を注いでまいります。

春とはいっても朝夕まだまだ冷え込みます。年度末でご多用のことと存じますが、くれぐれも体調を崩されませぬようご自愛ください。

東尾　公子（近畿大学附属看護専門学校）
中西　伸子（奈良県立医科大学）
古川　洋子（滋賀県立大学）
岡山　久代（筑波大学医学医療系）
鈴木　康江（鳥取大学）

●助産師教育ニュースレター　第88号
2017年3月25日
発行人　公益社団法人　全国助産師教育協議会事務局
Japan Society of Midwifery Education（J.S.M.E）
会長　井村　真澄
〒112-0013
東京都文京区音羽1-19-18　東京都助産師会館2階
電話・FAX　０３－３９４４－２９１１
（火・金　事務局在室）
http://www.zenjomid.org/
E-mail　zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp